

中学校でのアサーション・トレーニング導入に関する実践研究

—社会科における表現力の向上の実践と いじめ防止の実践を通して—

黒木幸敏 (公立中学校)

問題と目的

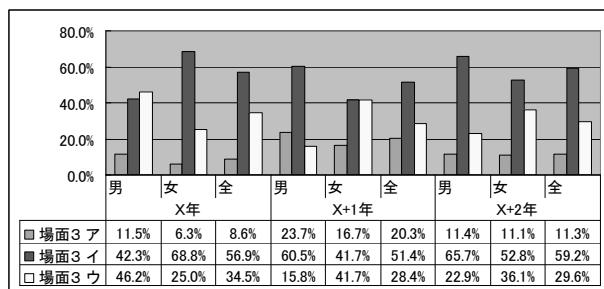
現行学習指導要領において、教科指導の中においても、これまで以上に思考力、表現力の育成に力点を置くと考えられている。このことは、自分の意見を相手に正確に伝え、相手との対話を進めたいこうすることを奨励するものでもある。つまり、人と関わり、「生きていく力」を全教育活動の中において具現化していくことと捉えることができる。筆者はこのように捉えて、本研究に取り組んだ。さて、表現力の向上のためには様々な方法があるが、本研究はアサーション・トレーニング(以下 AT)を導入した。ここで言う AT は平木典子 (2008) らが進めている AT を基本としつつ、中学生のニーズや語彙力等も含め、発達段階を考慮した AT プログラムを筆者が作成した。平木の言う AT の定義は「自分を尊重した、さわやかな自己表現」である。「さわやか」の意味は、自分の思いを率直に述べ、自分の思いや意見が相手に伝わり、納得、賛成を得たことのみが「さわやか」と捉えられるが、それだけを意味するものではない。つまり、自分の意見を述べても、相手は反対することもあるので、そのことを想定して、相手との一致点や妥協点を見出していこうとする姿勢を持っているコミュニケーションが「さわやか」な意味であり、AT が目指していることの 1 つである。AT がめざすものは、人と人が協同して生きていくためには重要なもので、一人ひとりが社会を変革に導いていくことにつながるものと考えられる。

方法と結果

1 いじめ防止の実践例

3 年間にわたり、A 中学校の 1 年生が入学して間もない 4 月下旬頃に「いじめの認識」についての学年集会形式で、場面 1～場面 6 までについて生徒たちに考えさせ、解説を行った。場面 3 を取り上げその結果は下の「表 3」に結果を示した。

＜表 1 場面 3 における男女・全体の 3 年間の比較＞



場面 3 を取り上げた理由は、3 年間を通して、もっとも正解率が低かったからである。いじめ行為においては、周りの生徒たちから、いつもプロレスや柔道などの技をかけられたりしている生徒が毎回

同じであっても、本人がその場で「違うよ、いじめられてないよ、遊びだよ」などと否定するとそれ以上踏み込まず、いじめ行為とみなさない生徒が 7 割近くを占めている。

場面 3

A 男はいつも休み時間には、ろうかで B 男や C 男、D 男とプロレスごっこをしていました。そして、いつも A 男は技をかけられ、「痛い、痛い」と言っていました。体にあざもできていました。ある日、S 子さんが「あんたら、いつも A 男ばかりがやられているやんか。それって、いじめとちがうの?」と B 男にいいました。それに対して、B 男が、「そんなことないよなあ、A 男、おまえ楽しいんだよなあ、そうやなあ。」と A 男に言いました。それに対して A 男は、「うん、そうや、別に嫌なことないで。」と答えました。

3) ア～ウの中であなたの考えはどれに近いですか。

ア これは遊んでいるだけでいじめとまでは言えない。

イ A 男が「楽しくない、困っている。」と言えば「いじめ」だが、「いやなことはない」といっているのので、「いじめ」ではない。

ウ これは、A 男に対する「いじめ」である。

あなたの解答 ()

2 社会科における AT 実践例

社会科の既習の知識をもとに、当時の歴史上の人物が行った行為について、自分の意見を述べていくという試みである。歴史の理解も深まり、その出来事について、AT の自己表現法のスキル DESC (デスク) を用いて自分の意見や思いを文章にして発表するというものである。以下生徒作品の一部を掲載する。井伊直弼に対して (中 2 男)

D: 「あなたは国をまとめるために攘夷派のリーダーを次々と逮捕し、橋本左内、吉田松陰らを処刑しましたね。」

E: 「あなたは自分なりに国の最善策だと考えてやったのだと思います。でも、そのことによってたくさんの人が悲しんだと思います。」

S: 「自分 1 人で考えるのではなく、みんなと話し合って決めればよかったんじゃないかな?」

YES の場合: 「ありがとう、もうやってしまったことは仕方ないから、これから一緒に国について考えていきましょう。」

C
NO の場合: 「もう 1 度、同じ過ちをおかしてほしくないんです。」「もう 1 度考えてもらえませんか。」

3 考察

学校で AT を導入したねらいである表現力の育成に関しては、特に社会科で DESC づくりを継続し、定期考査にも DESC づくりを取り入れた評価の 1 つの材料としていった。生徒たちが作る DESC は学年があがるにつれて、上手になっていった。またいじめ防止はじめ、開発・予防的に中学生の円滑な人間関係づくりにとっても、AT を取り上げることによって、生徒たちの意識が高まったと考える。